

第14回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) それでは、まず、本日の会議の公開についての取扱いですが、公開することにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〈異議なしの声〉

それでは、本日の会議については、公開することで進めさせていただきます。

本日は、傍聴希望がありますので、入室を許可してもよろしいですか。

〈異議なしの声〉

それでは、傍聴人の入室を認めます。

〈傍聴人 入室〉

教 育 長) 会議録署名委員の指名（越野委員）

教 育 長) それでは、審議に入ります。日程第1、報告第18号「芦屋市立幼稚園における3年保育の実施及び廃園（所）条例の廃止を図るための関係条例の整備に関する条例の制定について」を議題とします。提案説明を求めます。

管 理 課 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

管 理 部 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

越 野 委 員) 現状の確認をしておきたいのですが、芦屋市内で現在3年保育を実施している私立幼稚園の充足率と、保育所の待機児童の内訳を教えてくださいませんか。

管理課長) まず、今の芦屋市内の私立幼稚園の充足率の状況ですが、認定こども園の愛光幼稚園も含む4園で申し上げますと、3歳児から5歳児全体で、定員510人に対して園児数が403人となっており、充足率といたしましては79%でございます。

これは芦屋市内にある、芦屋大学附属幼稚園、みどり幼稚園、甲陽幼稚園の従来型3園の場合でも、3歳児から5歳児全体で、76.8%という同じぐらいの数値になっております。ですので、大体8割前後ぐらいの率になっていると思います。

また、待機児童の状況については、この1月現在で芦屋市全体としまして、428人になります。年齢別で申し上げますと、ゼロ歳が213人、1歳が112人、2歳が50人、3歳が30人、4歳が19人、5歳が4人という内訳になります。

越野委員) 芦屋市内の3園ある私立幼稚園は、全ての園の充足率が100%を切っているのですか。

管理課長) 先ほど、直近の充足率はおおむね8割程度と申し上げましたが、数年前までは大体9割、もしくは9割を超える充足率でした。ここ1、2年ほどは、その充足率が若干落ちてきている傾向にあります。

木村委員) 最近、少し充足率が落ちてきたという原因について、分析されておられるのでしょうか。

管理課長) 推測ではありますが、やはり就労形態の変化だと思います。実際に、両親が働きに出られる世帯が増えているため、保育所を希望されていることが大きいのではないかと考えております。

小石委員) 4月より開園する予定のこども園についての、1号、2号、3号、それぞれの充足率、そして現在の申請状況等をわかる範

囲で教えていただきたいです。

管理課長) 私のほうからは1号、いわゆる幼稚園部分の説明になりますが、4月開園予定として、浜風あすのこども園、南芦屋にある、しおさいこども園の2園がございます。浜風あすのこども園につきましては、3歳児の定員が20名に対して、入園予定者は20名です。しおさいこども園につきましては、3歳児の定員が30名に対して、29名となっております。

いずれの園につきましても、4歳、5歳という部分につきましては、通うとなると現在通われている園から、途中で移るということになりますので、まだ定員が埋まっている状況ではありません。例えば、5歳児ですと1年だけそこに通われることになりますので、あすのこども園ですと5名の方、しおさいこども園ですと、4名の方が入園予定となっておりますが、3歳児については、おおむね100%埋まっている状況です。

木村委員) 国の方では、教育無償化を目指しているということですが、仮に無償化になった場合に幼稚園はこうなる、保育所に対するニーズはこうなるなどといった予測はできるのでしょうか。

私も余りわからないのですが、これをやることで、どのような影響があるのかがいま一つわかりかねます。そのあたりは事務局として、何か議論や予測を立てているのでしょうか。

管理課長) どういう状況でという部分についてはわからない部分もありますが、今の推測では無償化が完全実施されますと、例えば、幼稚園の3歳保育に限らず保育所需要、つまり、保育料がただになるということで、働きに出ようかという家庭も多くなってくるなど、そのような需要も一定増えていくのではないかと考

えております。

木村委員)　そうですね。私立幼稚園の充足率が少し減ってきていることや、最近の共働き世帯が増えている傾向からすると、幼稚園より保育所にたくさんの方が行く可能性もかなりあるという感じもするので、果たして3年保育を行っている幼稚園の需要が増えるかどうかという予測はなかなか立ちにくい感じもします。

ですから、いざ、無償化になったときには迅速に対応できるようにしておかないといけないとは思いますが、無償化になったから幼稚園に人がたくさん来ると言えるのかというと、そこは少し慎重に考えないといけないという感じはします。

浅井委員)　今回のあり方の計画については、公立の認定こども園を整備していくことが、大きな前進だと考えます。

それと同時に、子どもの人数のこれからの動向や推移、それからニーズの変化をしっかりと見守りながら、そして芦屋市の教育として何を指すかをしっかりと検討しつつ、あり方の計画を進めていくことが大事だと考えています。

木村委員)　この議題については議会のほうで、審議をされて結論を出すということですね。選挙で選ばれた議員が、市民を代表して判断をするので、そうした現状においては、我々が一度送り出したものについてどうこうというよりは、まず議会の判断を見守りたいなという気持ちは個人的にはあります。

教育長)　他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、この件については今後の議会の判断を見定めていくということで御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。それでは「芦屋市立幼稚園における3年保育の実施及び廃園（所）条例の廃止を図るための関係条例の整備に関する条例の制定について」は以上といたします。

教 育 長) 閉会宣言